

奇跡の輝き 中村元風展

GUMPU NAKAMURA

# 奇跡の輝き 中村元風展

GUMPU NAKAMURA

2024年11月6日(水)-11日(月) 最終日は午後4時閉場

山口井筒屋 5階美術ギャラリー

## ごあいさつ

このたび、山口井筒屋では、「奇跡の輝き 中村元風展」を初開催いたします。

1955(昭和30)年、石川県に生まれた中村元風先生は、同地で江戸時代に生まれた古九谷の前衛精神や色絵に影響を受ける中で、釉薬ならではの「輝き」に大きな可能性を見出し、唯一無二の世界へと昇華してこられました。

また、科学者のバックボーンをもつ元風先生は、既存の素材に留まらず、貴金属やレアアース、水といった地球の恵みを化学反応させることで結晶化し、一種の宝石といえる新素材を研究開発されています。これをもとに歴史上存在しない輝きを放つ作品を次々と生み出すことから、輝きの芸術家とも評されています。

2010年には、中国二大美術館のひとつ国立上海美術館において、現存する日本人作家としては唯一となる個展を開催するなど、国内外で高い評価を得てこられました。

本展では、先生の代名詞であり、約26年におよぶ歳月を経て生み出された鮮烈の赤、希<sup>きせき</sup>赤を用いた夜明けシリーズや、宝石と貴金属が溶け合ったようなラグジュアリーな世界を表現したAurora(オーロラ)シリーズなどを一堂に展覧いたします。

目や心を奪うような光り輝く作品の数々を、この機会にぜひご高覧賜りますようご案内申し上げます。

2024年11月  
山口井筒屋

## メッセージ

輝きは、挑戦から生まれる。

私は芸術の世界において、まだ誰も見たことのない輝きを創り出し、歴史を塗り替えようと挑み続けてきました。

無論、歴史への挑戦は容易なことではありません。先人たちが成し得なかった夢や悲願の実現に身を賭すことは、無謀ともいえるでしょう。

しかし、それでも私は成し遂げたかったです。先人たちに感謝や敬意を捧げながらも、過去を克服し超えていくことが、今に生きる私たちの使命だと確信するからです。

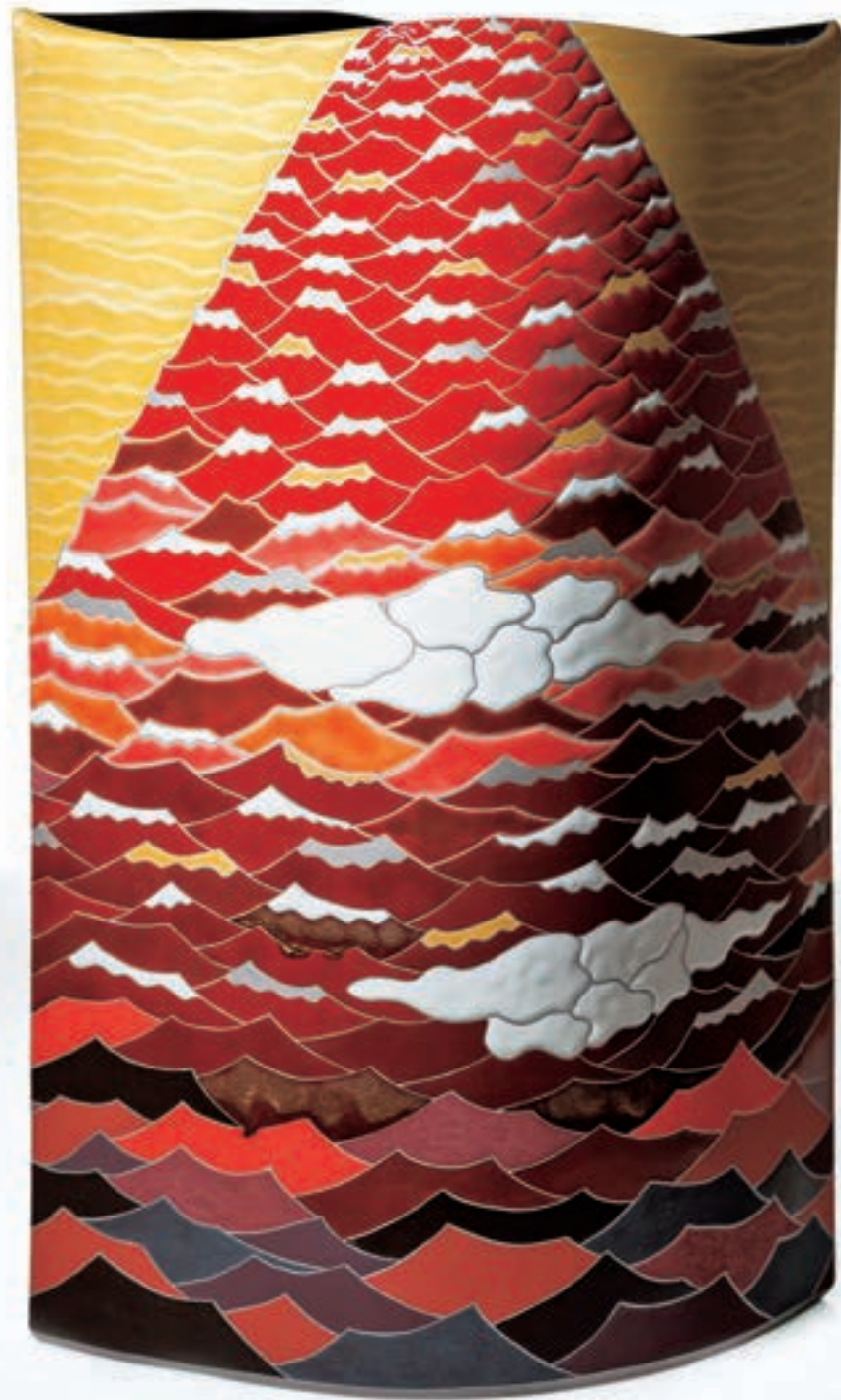
芸術とは、輝きの創出である。

芸術は、作品と関わる人の心を輝かせてこそその存在だと信じています。

私の作品と出会うことによって、胸の高鳴りや生きる喜びを味わっていただければこれに勝るものはありません。

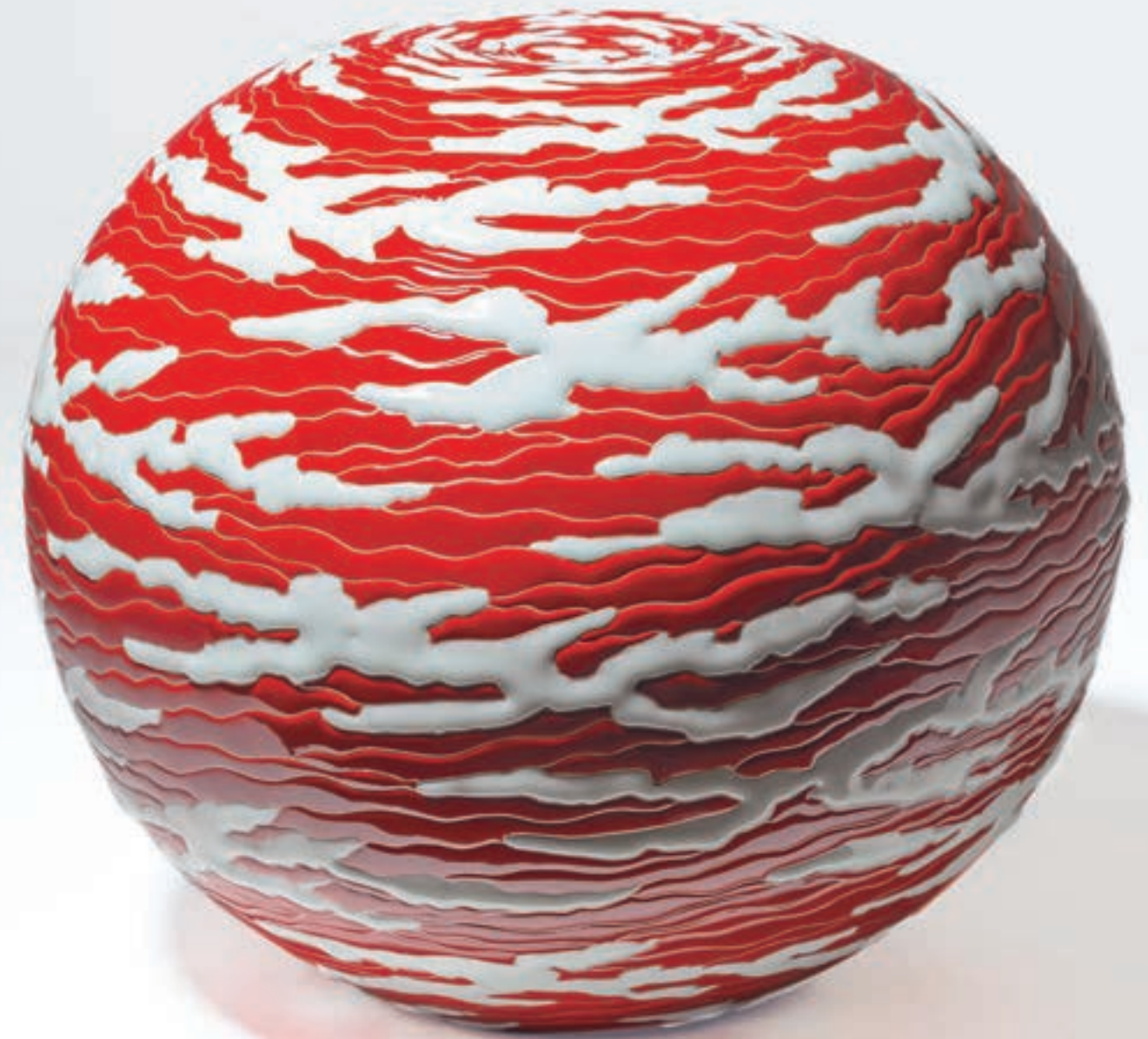
最後になりましたが、本展実現のためご尽力を賜った関係者各位に対し、心より感謝申し上げます。

現代美術家 中村元風



赤をめぐる人類の挑戦の歴史を一つの立体に封じ込めた作品。  
7000年以上ともされる釉薬の歴史において作り出されたさまざまな赤を下から上へと積み上げ、ひとつの富士を形作っている。山の頂点には、先人たちの幾多の挑戦を超越しようと作家が約26年をかけ創り上げた深紅釉「希赤」が輝く。

01 超越 17.6 x 31.5 x 49.7 cm



空間に太陽をもたらす作品。  
色の王者であり、人類最古の色彩ともいわれる赤。そして光の色であり、はじまりを感じさせる白。この両者が競うように立体を覆い、強いビジュアルイメージを形作る。紅白の配色は日の丸にも通じる。

02 希赤 夜明け 31.7 x 31.7 x 27.2 cm



03 希赤 赤富士 32.7 x 32.7 x 30.5 cm

赤富士は葛飾北斎をはじめ近世よりよく用いられてきた画題である。  
作家は、理想である天に向かってそびえ立ち、明るい希望を象徴する存在として赤富士をとらえた。  
画面からあふれんばかりの堂々とした富士、悠然とたたずむ雲、色とりどりに光り輝くふもとの里山や  
畑、そして裾野の先(作品背面)には洋々たる大海が広がる。



04 希赤 光華 25.5 x 25.5 x 22.6 cm

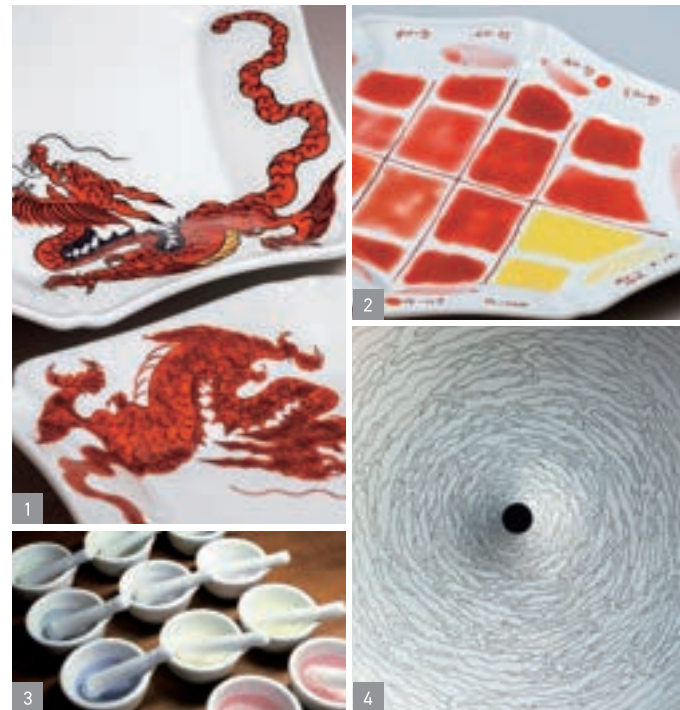
# 世界初の赤、 希赤をめぐる物語。

7000年以上の歴史を誇る釉薬の領域において、  
実現不可能とされてきた色がある。

26年の歳月を経て、  
中村元風がついにたどりついた鮮烈の赤、  
希赤の誕生秘話をひもとく。

釉薬とは、セラミック表面に融着したガラス質の層のことである。その起源には諸説があり、紀元前5400年頃のエジプトともいわれる。この分野に科学的なメスが入れられたのは比較的新しく、釉薬は長く神秘の世界に属するものであった。基本となる色は5色。赤、黄、緑、紺青、紫だが、このうち歴史的に赤だけは例外の扱いがされてきた。他4色はガラス質で鮮やかなのに対し、赤には透明感や光沢がなく、発色も赤茶や朱色に限られる。長い歴史の中では、固定観念が醸成されるのが常である。歴史上、輝く赤を目指す挑戦は幾度もあったことだろう。しかし、いずれも成功に繋がることはなかった。それゆえ、いつしか濃い朱色が限界と認識され、常識として定着した。もし中村元風が陶芸家の出自ならば、この状況を疑問なく受け入れていただろう。しかし、そこは科学者の出身。「なぜ赤にだけ輝きがないのか。創り出すことは本当に不可能なのか。」純粋に科学者としての血が騒いだ。

それまで経験と勘でなされてきた釉薬研究を、作家は一から見直すことに着手する。1986年のことである。原材料の成分や調合を科学的に分析、数え切れないほどの実験を繰り返し、連日テストピースを焼成し続けた。そうして研究開始から実に26年の歳月が経過した2011年、世界で初めて輝きのある深紅の釉薬「希赤」の焼成に成功した。この日は奇しくも3月11日、つまり東日本大震災の当日であった。



- 1 手前が平面的でくすんだ色調の従来の赤。奥が希赤。光沢と色の違いが見てとれる。
- 2 完成当日のテストピース。右下に2011.3.10と確認できるが、これは焼成炉に入れた日付。翌朝、希赤は完成をみた。ところが、直後に東日本大震災が発生。「希赤」の名には、日本に希望をもたらす赤であれという願いが込められている。
- 3 希赤の発明により、三原色で唯一欠けていた最後のピースである赤が揃った。このことは混色により理論上、無限に色を作り出せることを意味する。2014年にノーベル賞を受賞した青色LEDのエピソードを想起させることから、アート界の青色LEDと呼ばれることもある。
- 4 純度99.9%のプラチナを用いて緻密な線描がなされる。この後、希赤の塗布と焼成を三度繰り返すことで、鮮烈な色彩を伴う分厚い層が形成される。





一見すると抽象的なパターン  
のようだが、細部に目を凝らす  
とわかるように、実はバラの  
集合体となっている。  
世界中に輝きが咲き乱れるこ  
とを願って《輝咲》と名付けら  
れた。

05 希赤 輝咲  
25.2 x 25.2 x 22.2 cm



07 希赤 輝咲 香炉  
11.2 x 11.2 x 11.5 cm

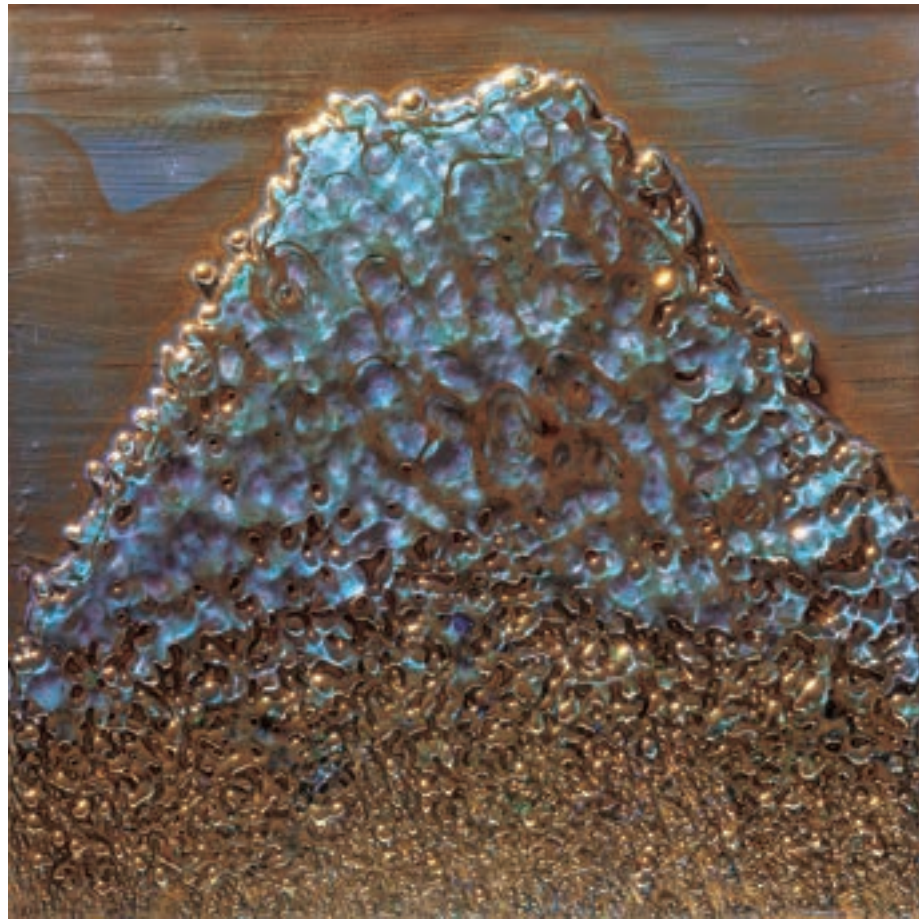


06 希赤 夜明け  
22.6 x 22.6 x 18.7 cm



昇る太陽を思わせる丸みを  
帯びた赤富士。そして波であ  
りまた青い富士でもある鋭い  
山々が重なり合い、躍動感あ  
る世界が広がる。  
作品名のそうそうには、草創、  
錚々、層々、蒼々など多様な  
意味が込められている。

08 富士そうそう  
φ 30.4 cm



もしも富士がオーロラに覆われたなら、どのように見えるだろう。  
作家が発明した一種の宝石ともいえる独自素材とゴールドを融合させることにより、この壮大な想像を形にしたもの。光源や見る角度によって、ビジュアルががらりと変貌する特徴をもつ。輝きを浴びる絵画。

09 Aurora Fuji  
オーロラ富士  
30.3 x 30.3 cm

理想である頂点に向かい、上へ上へと駆け上がる挑戦の象徴としてピラミッドをとらえた。富士の抽象化と解釈することもできる。エジプトにあるピラミッドは、元々化粧石が張られ光り輝いていたという説がある。その輝きを発展させ、まばゆいばかりの存在として出現させている。

11 Aurora Pyramid (Platinum)  
オーロラピラミッド(プラチナム)  
19.6 x 19.6 x 12.1 cm



10 Aurora 包輝  
オーロラ包輝  
21 x 21 x 25.7 cm

トロフィーを思わせる造形の上で、色とりどりの石とプラチナが重なり合い輝きを放つ作品。光を浴びるたびに存在感が立ち上がり、まばゆいばかりの世界が出現する。

12 Aurora 清輝  
オーロラ清輝  
10.8 x 12.6 x 29.7 cm





# 中村元風 創作の軌跡

# HISTORY

「芸術とは、輝きの創出である」との理念のもと、かつてない輝きをアートとサイエンスの両面で追求してきた中村元風の軌跡を追う。



海へ、海へ 1989  
49 x 49 x 22 cm



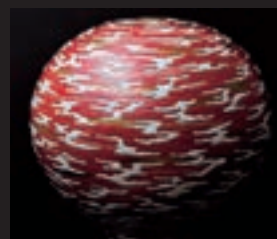
赤絵草文大鉢 1991  
45.5 x 45.5 x 10.5 cm



釣図 木瓜形大皿 1996  
36 x 33 x 6 cm



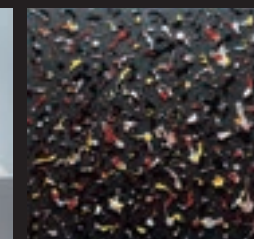
桜島 2003  
57 x 43 x 7 cm



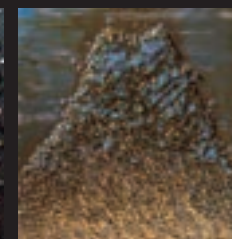
夜明け前 2011  
30.5 x 30.5 x 29 cm



The Glaze Pyramid 2016  
c. 120 x 120 x 90 cm



Unnamed 2017  
61.2 x 61.2 cm



Aurora Fuji 2019  
30.1 x 30.2 cm

## 研究開始

1986年

光と色の研究を開始する。

1991年

- ・古九谷を写す仕事を始める。
- ・水会陶芸展にて「水会賞」を受賞。
- ・初個展を開催(東京)。

1993年

ギャラリー「ギャラリー元」を開廊し運営。都内百貨店に自身の名を冠した。

1995年

日本工芸会正会員に推挙。

2002年

加賀市文化財保護審議会委員に就任。

2004年

以後連続出展(2016年まで)。  
・景德鎮国際陶器博覧会に招待出品。

2008年

Ambiente(ドイツ・フランクフルト)に出展。

2010年

- ・上海美術館にて回顧展開催。
- ・中国景德鎮国際陶器博覧会にて金賞を受賞。
- ・景德鎮(於陶器学院)にて個展開催。日本人初。

## 希赤誕生

2011年

ガラス質の深紅釉「希赤」を完成。世界初。

2012年

日中韓ギャラリー芸術博覧会に日本代表として出展。

以後連続出展(2016年まで)。  
・Shanghai Art Fairに出展。

## グレイズ完成

2014年

水の輝きを永遠化する釉「グレイズ」を発明。世界初。

2015年

同顕彰碑建立委員会委員長として建立。九谷焼開祖前田利治公顕彰碑を。

2016年

生まれるを開催(東京)。「グレイズ」—輝きは、チャレンジから

2017年

・NHK「美の壺」に出演。  
・中村元風グレイズ・ペインティングを開催(東京)。

2018年

・中村元風展パートナーとしてのアートを開催(東京)。  
・中村元風「誕生」The Glaze 2018を開催(東京)。

## オーロラ完成

2019年

自ら創り出した宝石と貴金属を融合させた「オーロラ」シリーズを発表。

2020年

創作活動40周年。

2021年

研究35周年。



1980年、ろくろの修業を開始したばかりの作家を伝える新聞記事



1986年研究開始当時のラボノート



2010年、中国二大美術館のひとつ上海美術館にて回顧展を開催。5日間の会期中、1万人以上の来場者を集めた。

上海中心部にそびえ立つ上海美術館の外観



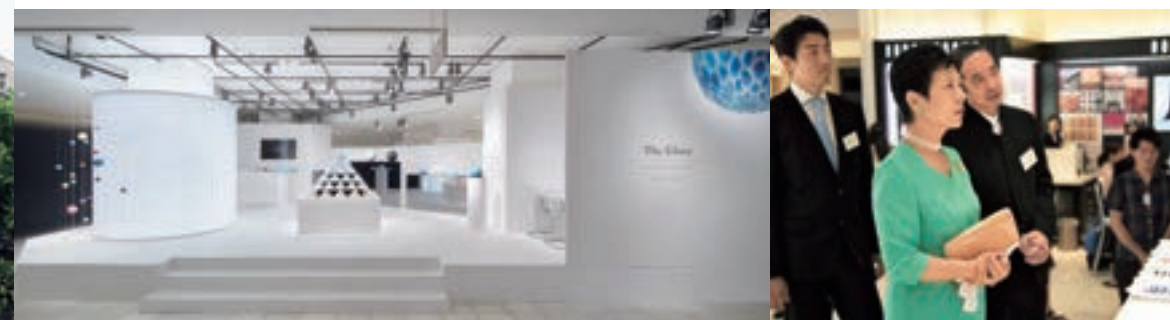
2012年、日中韓ギャラリー芸術博覧会にて、平野文科大臣、近藤文化庁長官に解説を行う作家



古九谷窯跡至近に建立された前田利治公顕彰碑



2018年、中村元風「誕生」The Glaze 2018の展示風景



(左)2016年、「グレイズ」—輝きは、チャレンジから生まれる展の会場風景

(右)高円宮妃久子殿下のお成り



人と人との切っても切れない関係が世界を包み込み、平穩無事が訪れることを願う作品。筆を駆使し編むように描き出した線。そのつながりがひとつ、またひとつと増え、網状に無限の広がりを見せる。無彩色に見える黒褐色の釉は、赤、黄、緑、紺、紫の5色を混色し作り出される。

13 絆  
20.9 x 20.9 x 19.4 cm



海にも山にも見える図柄は作家のトレードマークといえるもので、元風パターンとも呼ばれる。鑑賞者が自由に想像し解釈することにより、多様な世界が広がる。瑠璃色の連続は、広大な宇宙や深海に通じ、底知れない奥深さを感じ取ることができる。

14 深遠  
22.3 x 22.3 x 19.9 cm



15

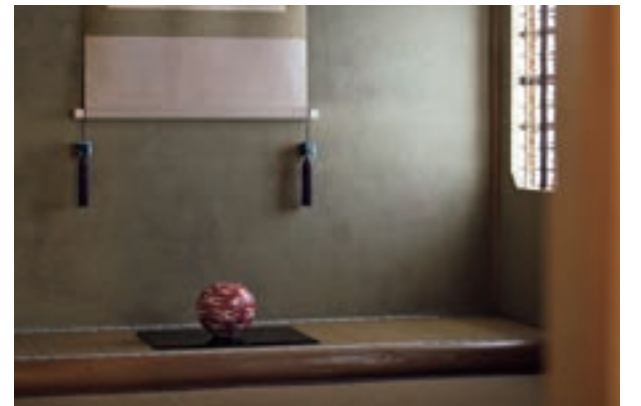


16



17

15 希赤 赤富士 香炉 11.3 x 11.3 x 12.8 cm / 16 希赤 夜明け 香炉 11 x 11 x 14.5 cm / 17 栄華 香炉 11 x 11 x 14 cm



QRを読み込むとインタビュー  
記事(日本セラミックス協会  
セラミックス誌 2023年9月号  
所収)を読むことができます。▶





18

雨が止み、水滴の伝う草花に光が差し込み、明るくみずみずしい光景が広がる。若き日の作家を何度も元気つけたモリアオガエルと草花を描いた、原点といえる作品。

中村元風 GUMPU NAKAMURA

現代美術家  
1955年生まれ



19 虹色に輝き、勇壮に駆ける馬がまばゆいほどに表現されている。馬は願いを叶える動物とされるが、鞍や手綱が描かれる一方、誰も乗っていない。この作品を所蔵する方がこの馬に乗り、願いを叶えてほしいというメッセージが込められてる。

20

18 雨上がり 8 x 17.5 x 21.5 cm / 19 黄金馬 20.5 x 20.5 cm / 20 黄金龍 20 x 20 cm

GU M P U N A K K A M U R A



IZUTSUYA

山口井筒屋

〒753-0086

山口市中市町3番3号

TEL 083-902-1111

<http://www.izutsuya.co.jp>